

# 短大生における餡の嗜好について（第2報）

—製菓学科と生活科学科における実態調査より—

Junior College Students' Opinion About the Taste of Bean Jam

— From a survey in the Confectionery Department and Life Science Department —

先川 直子 庄田 美保

(Naoko SAKIKAWA Miho SHODA)

**キーワード**：和菓子、餡、嗜好

**Key Words**：Japanese confectionery, Bean paste, Taste

## I. はじめに

和菓子は日本の伝統的食文化の一翼を担うとも言われる日本特有の菓子であり、『目白大学短期大学部研究紀要』第51号において庄田も述べた<sup>1)</sup>ように、その多くが年中行事と深く結びついており、大家族制の家庭内において作られ、家族及び来客に供されるものであった。

しかし、これらの年中行事は、現在では旧暦と呼ばれる太陰暦に基づく行事であり、明治期の文明開化における太陽暦の導入によって、端午の節句には菖蒲も柏の葉も十分に生育しておらず、七夕は梅雨の真っ最中、重陽の節句は残暑の厳しい折で衣替えには程遠い等々、季節感との間にずれを生じてしまった<sup>2)</sup>。さらに第2次大戦後の核家族化や食生活を含めた生活全般における欧米化の中で、我が国の伝統的な年中行事自体が人々の日々の暮らしから遊離したものになってしまい、菓子についても、洋菓子がもてはやされる一方で、和菓子離れの傾向にあると言われて久しい。その一方では、多くの和菓子が、わざわざ和菓子店に出向かずとも、近年はコンビニエンスストアやスーパーマーケットなどでも気軽に購入できるものとなっている。

そこで、前年度の第1報においては、平成26年7月に、製菓学科の学生113人に対してアンケート調査（文末に添付）を行い、日常的に実習授業において和菓子を作っている製菓学科の学生たちが「和菓子」や「餡」に対してどのように感じているのかを明らかにした<sup>3)</sup>。

本稿においては、自らが作る立場で連日和菓子に接している製菓学科と対極的な消費者としての立場にある生活科学科の学生に同様にアンケート調査を行い、両学科の学生における比較検討を行うこととした。

アンケートは生活科学科1年生全員を対象として、平成27年7月に実施し、欠席者を除く

---

さきかわなおこ：目白大学短期大学部生活科学科教授

しょうだみほ：目白大学短期大学部製菓学科専任講師

49人からの回答を得た。それを昨年7月に実施した製菓学科でのアンケート結果と比較検討し、若い世代特有の共通性ととも、生産者と消費者とでも言うべき両者における差異も含めて明らかにしたい。

## Ⅱ. 調査結果と考察

### 1. 和菓子について

設問1では、和菓子について好きか嫌いかを聞いた。

製菓学科では86%が和菓子を好き、14%は嫌いと回答し、生活科学科では90%が好き、10%が嫌いと回答した。

従って、2学科間で同様の傾向を示しているといえる。が、自らは作ることなく購入して食べるだけの生活科学科の方に好きな学生の割合が多かったのは、注目すべき事柄であろう。

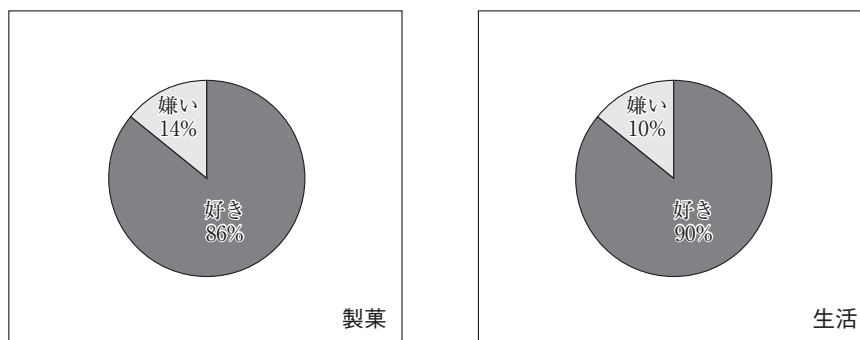


図1 あなたは和菓子が好きですか

設問2では、どのような和菓子を好むかを自由記載の複数回答で尋ねた。

回答数の多いものから順に示していくと、製菓では大福、柏餅や桜餅、草餅を含めて餅・餅菓子が37人(32%)、栗饅頭や黒糖饅頭などの饅頭類が16人(14%)、どら焼き14人(12%)、練切、チョコレート使用菓子がそれぞれ10人(9%)、団子類、わらび餅がそれぞれ9人(8%)、芋羊羹などの芋菓子、おはぎやばもち、求肥を使用した菓子がそれぞれ8人(7%)、水羊羹6人(5%)であり、最中、かすてら、羊羹や蒸し羊羹、金鑊などの菓子は極めて少数であった。

一方、生活では団子が20人(41%)で最も多く、饅頭10人(20%)、最中7人(14%)と続き、好きな和菓子は製菓学科と大きく異なっていることが分かった。

表1 どのような和菓子が好きですか（単位：人）

（製菓学科）

餅・餅菓子	37	水羊羹	6	葛もち	2
饅頭	16	寿甘	4	葛桜	1
どら焼き	14	羊羹	4	花びら餅	1
練切	10	最中	4	水饅頭	1
チョコレート菓子	10	カステラ	4	鹿の子	1
だんご	9	麩饅頭	3	蒸し羊羹	1
わらび餅	9	金つば	2	桃山	1
芋菓子・芋羊羹	8	焼鮎	2	鯛焼	1
おはぎ・ぼたもち	8	あんみつ	2	基本的に何でも	2
求肥もの	8	葛切り	2	餡を使用しない菓子	1

（生活科学科）

だんご	20	おはぎ	3	かりんとう饅頭	1
饅頭	10	わらび餅	2	信玄餅	1
最中	7	道明寺	1	八つ橋	1
どら焼き	4	水羊羹	1	くろみつきなこ	1
鯛焼き・今川焼	4	きんつば	1	鈴カステラ	1
桜餅	4	月餅	1	麩菓子	1
大福	3	寿甘	1	漉し餡のお菓子	1
羊羹	3	落雁	1	何でも	4
芋羊羹	3	あんみつ	1		

設問3では、餡、または餡を使用した菓子の好き嫌いを尋ねた。

製菓学科では好き39%、嫌い8%、餡による53%という結果であり、生活科学科では好き57%、嫌い8%、餡による35%という結果であった（図2）。

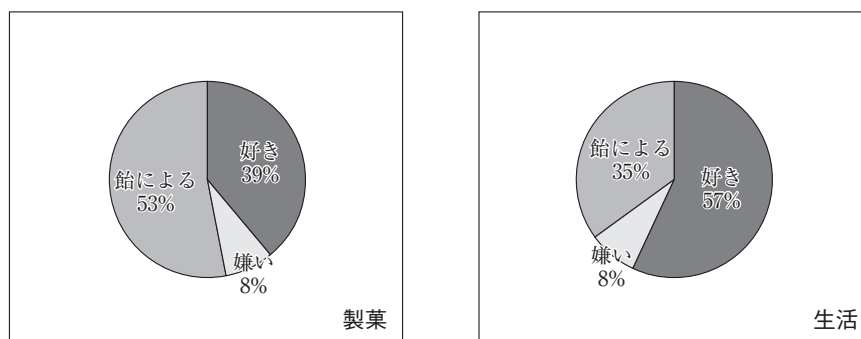


図2 餡、または餡を使ったお菓子は好きですか？

「嫌い」の割合は同率であり、「餡による」との回答も含めれば両学科とも同様の傾向を示すといえるが、生活科学科の方に「好き」の回答が20%近く多かったのは、意外であった。あるいは、生活科学科の学生は大雑把な餡のイメージで回答しているのに対して、製菓学科の学生の方は実習授業の中で多くの餡に接しており、その中には苦手な餡もあるための回答だと言えるかもしれない。

設問4では、設問3で餡、または餡を使用した菓子を好きと回答した学生（製菓学科：39% = 45人、生活科学科：57% = 28人）に何餡が好きかを複数回答可として聞いた。

その結果は、製菓学科では小豆こし餡が44人でほぼ全員が好むことが分かり、次いで小豆粒餡と白餡がそれぞれ19人で、その他の少数派は、うぐいす餡、黄味餡、チョコレート餡、ミルク餡などであり、生活科学科では小豆こし餡が21人、小豆粒餡14人、白餡9人、うぐいす餡4人、柚子餡2人等となっている（表2）。

したがって、両学科とも上位3種類の餡は同じであり、特に小豆こし餡は大多数の学生に好まれていることと、餡が好きとは小豆の餡が好きということであるのが、ここから分かる。ただし、この設問でも、実習授業で多種類の餡を知っている製菓学科の学生と市販品を購入するだけの生活科学科の学生では、自由記述形式のためか餡の種類に大きな違いがみられ、生活科学科においては一般的な餡のみが挙げられていた。

表2 何餡が好きですか（複数回答 単位：人）

（製菓学科 回答数45人）

小豆こし餡	44	芋餡	2
小豆粒餡	19	味噌餡	2
白餡	19	キャラメル餡	1
うぐいす餡	4	栗餡	1
黄味餡	4	柚子餡	1
チョコレート餡	4	梅餡	1
ミルク餡	4	桜餡	1

（生活科学科 回答数28人）

小豆こし餡	21
小豆粒餡	14
白餡	9
うぐいす餡	4
柚子餡	2
粒餡以外何でも好き	3
全部好き	1

この設問における「餡を好む理由・きっかけ」についての自由記述をまとめたものが表3である。

表3 好きな理由・きっかけ

(製菓学科)

小豆こし餡	甘くて美味しかったから なめらかで美味しい すんなり食べられる・しつこくない 赤福餅を食べてから あんパンが美味しかったから シンプルで口当たりが良い 自分で製餡し、感動・美味しかった 実習で食べたことがきっかけ	うぐいす餡	実習で食べず嫌いを克服したから パンに使われていて美味しかった 風味が良く食べやすいから
		黄味餡	実習で黄味時雨を食べてから好き 小豆餡は少しくどいから
		さつま芋餡	餡の味がしないから さつま芋が好きだから
		味噌餡	お餅との組み合わせが良かった
小豆粒餡	風味が良く食べやすいから 実習で食べたことがきっかけ もともと豆が好きだから きっかけは塩豆大福 食感が好き いつの間にか好き 鯛焼きの餡が美味しかった	チョコレート餡	実習で作ったのがきっかけ 餡が苦手でも美味しかったから
		ミルク餡	口溶け良く美味しかったから 白餡と合っていたから まるやかで生地と合うから
		キャラメル餡	実習で作って美味しかった
		栗餡	食感と味
白餡	実習で使ってから好きになった 食べたら美味しかった カステラ餡頭が美味しかった	千鳥餡	実習で食べてみて美味しかった

(生活科学科)

小豆こし餡	美味しいから 甘いから なめらかだから 小さい頃から食べていたから 大人になったから 粒餡が苦手だから 桜餅が美味しかったから 鯛焼き好きになったから きんつばを食べてから	小豆粒餡	美味しかった 甘いのが好きだから 小さい頃から好き 漉し餡だと物足りない きんつばを食べてから
		白餡	美味しかったから 甘いから 甘すぎないから
		うぐいす餡	美味しかったから 祖父に貰った今川焼

小豆こし餡を好む理由・きっかけは、両学科ともに甘くて美味しいことと口当たりがなめらかですんなり食べられること等が挙げられ、小豆粒餡ではこし餡では物足りないとする粒餡特有の食感が挙げられている。餡を幼少期から好きだったとする回答も両学科に見られたが、製菓学科では前年度の第1報で指摘したように、自分で作ったことが好きになったきっかけだと実習での体験を理由に挙げている学生が多いのに対して、生活科学科では、桜餅・きんつば・鯛焼き・今川焼等の市販の和菓子がまず存在し、餡はそれに使われているものとして認識されているということが分かる。

設問5では、設問3で餡、または餡を使用した菓子を嫌いとし餡によると回答した学生に何餡が嫌いかを聞いた。

回答数が多い順に、製菓学科では小豆こし餡、小豆粒餡、白餡、その他の回答には黄味餡、うぐいす餡、味噌餡、餡は全て、であり、生活科学科では、小豆粒餡、小豆こし餡、餡は全ての3種類であった(表4)。

表4 何餡が嫌いですか(複数回答 単位:人)

(製菓学科)		(生活科学科)	
小豆こし餡	19	小豆粒餡	8
小豆粒餡	4	小豆こし餡	1
白餡	2	全部	2
うぐいす餡	2		
黄味餡	1		
味噌餡	1		
全部	1		

この表からも、前問と同様に製菓学科の学生たちが「餡」という言葉から多種類の餡を連想しているのに対して、生活科学科の学生たちのイメージする「餡」の範囲は狭いということが分かる。

また、両学科で小豆こし餡と小豆粒餡の嫌いな順位が逆になっていることは注目すべき点であり、原因を探ることは今後の課題でもある。

なお、両学科ともに、小豆こし餡を嫌う一番の理由は小豆の味が嫌いということであり、小豆粒餡を嫌いな理由としては皮が口に残ることや粒々とした食感を第一にあげている。製菓学科の学生だけがあげている他の餡についての嫌いな理由は、前年度の第1報の通りである<sup>4)</sup>。

設問6では、和菓子をどこで購入するかを聞いた。

回答は、製菓学科では、和菓子店30%、家族が購入のため購入場所は不明25%、スーパーマーケット19%、コンビニエンスストア18%となり、他に、購入しない、お土産や頂き物、母親や祖母が作ってくれるというものであったが、生活科学科では、コンビニエンスストア29%、家族が購入のため購入場所は不明29%、和菓子店16%、スーパーマーケット12%、その他には、頂き物等や祭りで購入、購入しない等の少数回答の合計が14%である(図3)。

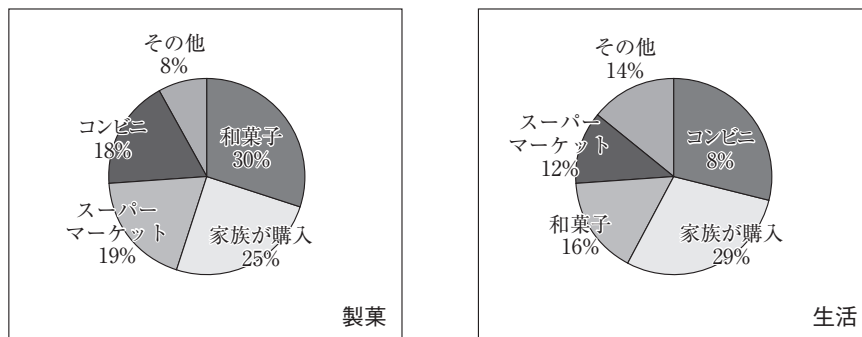


図3 和菓子はどこで購入しますか

家族が購入のため購入場所は不明という学生の割合が、両学科ともに第2位となっており、ここからは、4分の1以上の学生は、和菓子に関しては、どのような店で購入した品物かということには興味を持たず、あれば食べるという状況にあることが分かる。

一方、和菓子店で購入する割合が、製菓学科では第1位で30%を占めているのに対して、生活科学科では16%と製菓学科の半分程度の割合となり、逆に製菓学科で下位に位置するコンビニエンスストアが第1位となり、3割近くが和菓子の購入さえもコンビニエンスストアを利用していることが明らかになった。

この顕著な差異は、製菓学科の学生の場合には生活科学科の学生に比べて和菓子へのこだわりが強いためとも推測できるが、論証は今後行いたい。

スーパーマーケット及びコンビニエンスストアで和菓子を購入する、という回答の合計は製菓学科では37%、生活科学科では41%となり、和菓子店で購入するという回答を大きく上回る結果となり、特に生活科学科においてその傾向は顕著であった。家族が購入するため購入場所不明の割合が大きいため断言することは避けたいが、それでも、専門店離れの傾向にあるということはできよう。

このことは、近年和菓子業界でも注目していることだと、第1報でも指摘したが、芸術的とも言える技術を求められる職人の世界だと思われていた和菓子の領域においてさえも、スーパーマーケット、及びコンビニエンスストアが台頭してきており、その中で、和菓子店がどのようにアピールし生き残りをかけていくのかを模索している状態を実感させる結果となった。

## 2. 幼少時から今までの環境について

設問7では、幼いころのおやつはどんなものだったかを聞いた。

その結果は、製菓学科ではチョコレート菓子15、クッキーやビスケット14、スナック菓子、煎餅がそれぞれ11となり、団子10、洋菓子9と続いたが、生活科学科ではスナック菓子6、チョコレート4、ヨーグルト3という順であった（表5）。

両学科ともに、チョコレートやスナック菓子が上位に位置しており、ここからは、比較的入手しやすく、保存も効く洋菓子系の菓子が多く見受けられ、和菓子系のものの占める割合は少ない。

また、その中で、餡を使ったものがあったかという設問には、製菓学科ではどら焼き10、饅頭6、大福4などが挙がっているが、生活科学科においては、うぐいす餅、桜餅、団子、饅頭、羊羹が各1という状態であり（表6）、和菓子に対する知識の差が影響しているのかもしれないが、生活科学科の学生にとっては餡を使った和菓子はおやつとしてはあまり認識されていないのである。

表5 幼い頃のおやつ

(製菓学科)					
チョコレート	15	ドーナツ	5	カステラ	1
クッキー・ビスケット	14	果物	5	蒸しパン	1
スナック菓子	11	プリン・ゼリー	4	かりんとう	1
煎餅	11	卵ボーロ	4	手作りおやつ	1
団子	10	飴・グミ	4		
洋菓子	9	ホットケーキ	3		
アイスクリーム	8	おやき・中華まん	3		
(生活科学科)					
スナック菓子	6	駄菓子	2	りんご	1
チョコレート	4	うぐいす餅	1	甘食	1
ヨーグルト	3	アイスクリーム	1	どら焼き	1
菓子	2	水飴	1	昆布	1
団子	2	桜餅	1	おはぎ	1
プリン	9	煎餅	1	ドーナツ	1
ビスケット・クッキー	2	麩菓子	1	かりんとう	1

表6 餡を使ったおやつ

(製菓学科)				(生活科学科)	
どら焼き	10	最中	2	うぐいす餅	1
饅頭	6	水饅頭	2	桜餅	1
大福	4	鯛焼き	1	だんご	1
羊羹	3	芋羊羹	1	饅頭	1
水羊羹	3	あん玉	1	羊羹	1
牡丹餅・お萩	3				

設問8では、幼い頃に好きだった菓子について質問した。

回答数は、製菓学科では、チョコレート菓子23、洋菓子11、スナック菓子10、クッキーやビスケット、アイスクリーム、煎餅がそれぞれ5となり、生活科学科では、チョコレート菓子8、スナック菓子6、飴3、クッキー2と続いた(表7)。

この結果は前問の幼い頃のおやつと合致している。したがって、好きだから食べる頻度が多くなったのか、頻繁に食べているうちに好きになったのかという問題は残るが、両学科ともに洋菓子系のおやつを好んで食べていたことが分かる。



表7 幼いころに好きだったお菓子

(製菓学科)					
チョコレート菓子	23	饅頭	2	すあま	1
洋菓子	11	飴・グミ	3	おやき	1
スナック菓子	10	カステラ	2	大判焼き	1
クッキー・ビスケット	5	カステラ	2	かりんとう	1
アイスクリーム	5	ホットケーキ	2	麩菓子	1
煎餅	5	ボン菓子	1	プリン	1
ドーナツ	4	信玄餅	1		
卵ボーロ	4	羊羹	1		
みたらし団子	4	くずもち	1		
(生活科学科)					
チョコレート菓子	8	たい焼き	1	饅頭	1
スナック菓子	6	ポップコーン	1	麩菓子	1
飴	3	たまごボーロ	1	桜餅	1
クッキー	2	グミ	1	ドーナツ	1
駄菓子	2	昆布	1	甘食	1
				未回答・食べていない	11

設問9では、母親が和菓子と洋菓子のどちらが好きかを聞いた。

製菓学科では洋菓子66%、和菓子25%、どちらも好き9%、生活科学科では洋菓子61%、和菓子30%、どちらも好き9%となり（図4）、両学科ともにほとんど同じような傾向を示しており、和菓子は洋菓子の半分以下となっている。

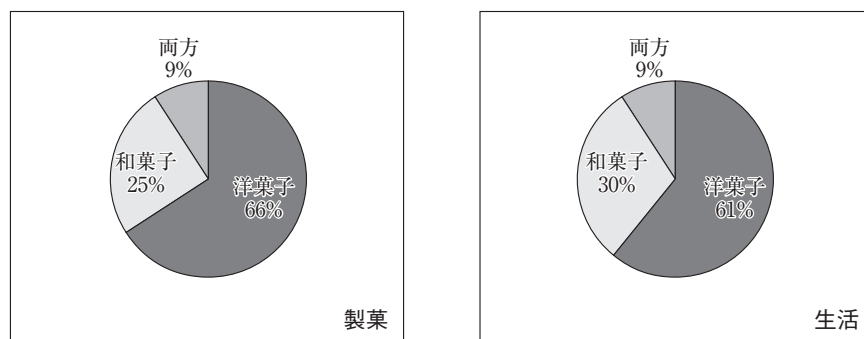


図4 母親の好み

次に、設問10では、母親または祖母が菓子を手作りしてくれたことがあるかを尋ねたところ、製菓学科では、ある34%、ない66%との回答があったが、生活科学科では、ある24%、ない76%であった（図5）。

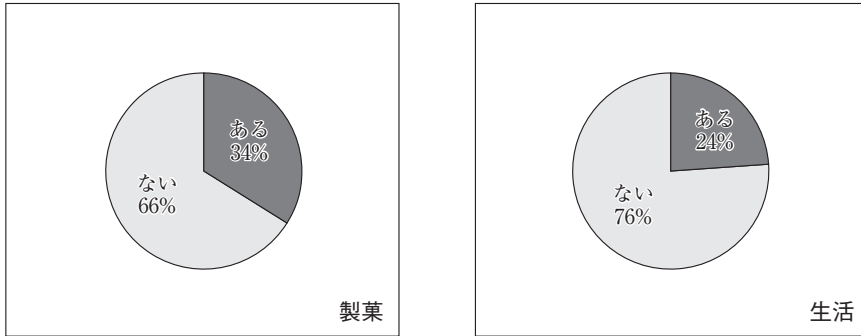


図5 母親または祖母が和菓子を手作り

製菓学科と生活科学科で10%の違いが出ていることは、両学科の学生の成長の過程での家庭における菓子との係わりの差を示すものであると言えよう。が、共働きの家庭も多いと思われる中で、製菓学科で約3分の1の学生が、生活科学科でも約4分の1の学生が家族の手作りおやつに接しているということは、年中行事への関心が希薄になってきた今日においてもなお、家庭内において菓子を手作りすることが受け継がれてきているということができよう。

そこで、作ってくれたものは表8に示すとおりであり、ここでは、年中行事の彼岸に食される非日常的な印象の強い牡丹餅、お萩が突出している。年中行事に対する関心の希薄化とは矛盾する結果であり、幼い頃の出来事なのか、現在も踏襲しているのか、興味深い問題ではある。しかし、その反面、同様に年中行事にかかわるはずの柏餅や草餅等の割合は極めて低い。特に生活科学科においては、先川がアンケートの対象者でもある1年生の「ファッションと生活」の授業の中で重陽の節句と衣替えについて説明した時に、桃の節句や端午の節句についても触れたところ、柏餅を知らないという学生が多数おり、愕然としたことを付記しておく。

表8 手作りしてくれた菓子

(製菓学科)

牡丹餅・お萩	16	柏餅・ちまき	2
団子	5	草餅	1
饅頭	5	黄奈粉餅	1
クッキー	4	プリン	1
ホットケーキ	3	和菓子を色々何でも	2
洋菓子	2		
大福	2		
赤飯	2		

(生活科学科)

おはぎ	6
苺大福	2
だんご	2
ドーナツ	1
かりんとう	1
紅花饅頭	1

設問11では、祖父母と一緒に暮らした経験があるかどうかを聞いた。

製菓学科では経験がない学生が66%、以前に同居した経験がある学生が20%、現在も同居している学生が14%となったが、生活科学科では経験がない学生が45%、現在も同居してい

る27%、以前に同居していた14%、未回答14%であった（図6）。

生活科学科における未回答については、祖父母との設問であったため、祖父あるいは祖母の一方だけとの現在あるいは以前の同居で、該当項目なしと判断した学生も含まれており、未回答の中身を一概に簡単には判断することはできない。しかし、それ以外の回答の割合から見ても、生活科学科では製菓学科に比べて同居なしの割合は低く、過去の同居の経験ではなく現在も同居している割合が高いということが、分かるのである。

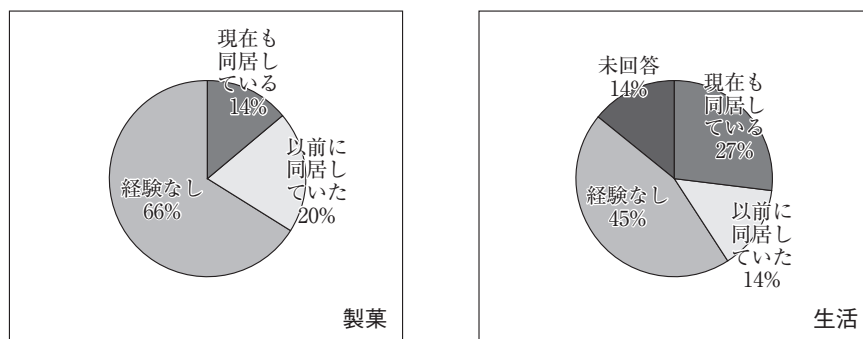


図6 祖父母との同居の有無

設問12では、それぞれの家庭での年中行事の取り入れ方について聞いた。

製菓学科では行事によって取り入れる家庭が60%、積極的に取り入れる家庭と全く取り入れていない家庭がそれぞれ20%ずつとなり、生活科学科では行事によって取り入れる家庭が55%、全くなし25%、未回答14%と続き、積極的に取り入れている家庭は6%であった（図7）。

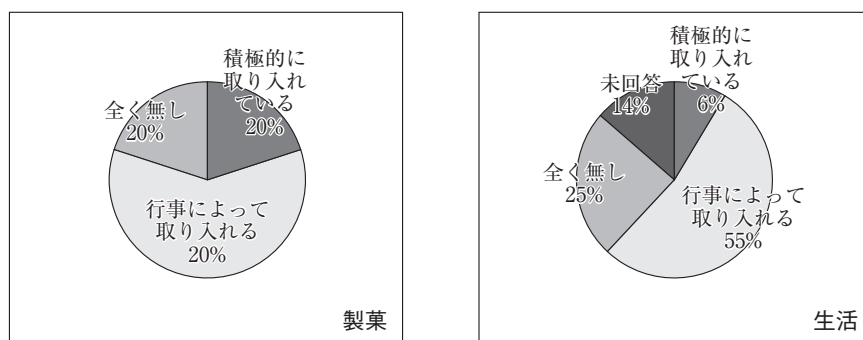


図7 家庭における年中行事の取り入れ方

生活科学科における未回答率は前問と同率であったが、2問とも故意に未回答という以外に、年中行事という言葉を理解していないために回答不能であった者も含まれていると思われる。回答においては、積極的ないしは行事によって取り入れている家庭が製菓学科では80%

なのに対して生活科学科では61%と低い割合を示している。特に、積極的に取り入れている家庭は、製菓学科では20%であったのに対して生活科学科では6%と少数であった。

前問の設問11における祖父母との同居の割合では生活科学科の方が高かったことと総合してみると、現在の家庭においては、すでに祖父母との同居の有無が家庭内における年中行事の伝承の要因にはなっていないということが判明した。

積極的に取り入れている家庭と行事によって取り入れる家庭にその行事を聞いた回答は、回答数の多い順に、製菓学科では正月や七草が35人（31%）、ひな祭り25人（22%）、節分18人（16%）となったが、生活科学科では正月とひな祭りが8人（16%）、バレンタイン5人（10%）、土曜の丑の日・子どもの日・クリスマス各3人（6%）となり、製菓学科で正月と同数だった七草は皆無で、節分も2名だけであった。両学科ともに人数が一番多い正月は、世間一般が皆、年末からお正月の雰囲気包まれるので、改めて意識する・しないに関わらず取り入れやすいのではないかと考える。ひな祭りも回答数が多かったが、これは同様の年中行事である端午の節句（子どもの日）よりもバレンタインが上位に位置していることから明らかなように、アンケートの調査対象が女子短大生だったためであろう。また、製菓学科では年中行事の5つの節句を指す「五節句」という回答があったが、これは3世代同居等の経験者によるものであった。

表9は設問11の祖父母との同居の有無と設問12の年中行事の取り入れ方を重ね合わせたものである。製菓学科においては、現在、または以前に同居経験のある家庭ではより多くの行事を取り入れており、同居経験のない家庭ほど全く取り入れない傾向が強いということが分かった。しかし、生活科学科においては全く取り入れないとの回答が、同居経験なしの家庭よりも現在または以前に同居していた家庭の方に多いという結果になっている。

したがって、年中行事及び和菓子も含めて年中行事に付随したものが、現在よりも年中行事が生活に密着していたであろう時代を経験した年長者と生活を一にすることで伝承されている

表9 年中行事の取り入れ方

(製菓学科)

同居 20	積極的に取り入れている	8
	行事によって取り入れる	12
	全く無し	0
以前に同居 していた 30	積極的に取り入れている	8
	行事によって取り入れる	16
	全く無し	6
経験無し 61	積極的に取り入れている	6
	行事によって取り入れる	40
	全く無し	15

(生活科学科)

現在も同居 している 13	積極的に取り入れている	1
	行事によって取り入れる	8
	全く無し	4
以前に同居 していた 7	積極的に取り入れている	0
	行事によって取り入れる	5
	全く無し	2
経験無し 22	積極的に取り入れている	4
	行事によって取り入れる	12
	全く無し	6

のではないかという昨年度の製菓学科での結果からの推測は、生活科学科においては当てはまらず、一般論にはなり得ないことが分かった。

### Ⅲ. まとめ

昨年度の製菓学科と今年度の生活科学科の学生へのアンケート調査から、若い世代における和菓子の嗜好を代表的な素材である餡の嗜好を中心に探るとともに、実習授業において自らが製作者である製菓学科の学生と購入して食べる消費者である生活科学科の学生では、どのような違いがあるのか・ないのかを明らかにすることを目的としていたが、以下のようなことが明らかになった。

和菓子の嗜好については、両学科とも9割近い学生が好きだと回答しており、若い世代も和菓子が非常に好きだと言える。が、表1のように、好きな和菓子としては、生活科学科ではだんごが突出しており、他も一般的な和菓子名が挙げられており、製菓学科で挙げられた練切・葛切・花びら餅などの専門的ともいえる和菓子の名称は見当たらない。また、製菓学科においてチョコレートが和菓子として記載されていたのは、表2にも登場したように、実習授業の中で餡としてチョコレートを使用したことによる製菓学科特有の回答であろう。

餡を使った和菓子の好き・嫌いの質問に対して、嫌いの割合は同率の8%であったが、好きの割合が生活科学科では57%だったのに製菓学科では39%と生活科学科の3分の2に過ぎなかったが、これも前記のことと同様に、製菓学科の学生が生活科学科の学生よりも餡が嫌いだということを意味するのではなく、様々な餡を実習授業で体験しており、その中には嫌いな餡もあったために餡によるとしたのであり、餡のバリエーションが豊富でない生活科学科の学生は自分たちの知識の範囲内で回答したため、このような結果になったのだと推測できる。表2の好きな餡の種類の数や、表3で生活科学科の学生が嫌いな餡を3種類しか挙げていないことも、同様の理由によるものと考えられる。ただし、最も嫌いな餡が、製菓学科では小豆こし餡なのに対して、生活科学科では小豆粒餡が圧倒的多数であるという違いが生じている点については、偶然なのかも含めて原因を探ることは今後の課題である。

和菓子の購入場所として、製菓学科では3割の者が和菓子店を挙げているのに対して、生活科学科ではその半分程度であり、和菓子店とコンビニエンスストアがほぼ逆の数値になっており、和菓子さえも約3割の者がコンビニエンスストアを利用している。この両学科における顕著な差異は、和菓子に対するこだわりの差とも考えられるが、論証は今後の課題である。しかし、両学科ともにスーパーマーケットとコンビニエンスストアの合計は和菓子店を大きく上回っており、芸術的ともいえる技術を要求される職人の世界と思われてきた和菓子の分野においてさえも、専門店である和菓子店離れが起きていることを示す結果となった。

家庭環境との関連では、幼少期に好きだったおやつ第1位はともにチョコレート菓子であるなど、両学科の間に相違は見られず、洋菓子系のおやつを好んで食べていたことが分かった。洋菓子好きな母親が和菓子好きの2倍以上いるという家庭環境の中で、保存のきく洋菓子

系のチョコレート菓子やスナック菓子がおやつ主流になっていたのは容易に納得出来ることであるが、一方で、年中行事と結びつき非日常的な印象の強い牡丹餅・おはぎを手作りしているとの回答が、製菓学科14%、生活科学科12%と、ともに10%を超えていたことは興味深い事柄であった。

祖父母との同居と家庭における年中行事の取り入れ方では、製菓学科では同居の家庭ほど積極的に取り入れる割合が高かったが、生活科学科ではその傾向は見られず、現在よりも年中行事が生活に密着していたであろう時代を経験してきた年長者と生活を共にすることで、年中行事やそれに付随する和菓子も伝承されているのではないかという思惑は、大きく外れることとなった。

昭和30年代の核家族化の進展と衣食住分野のすべてにおける欧米化・家電製品の急速な普及等により、家庭生活はそれまでと大きく変化している。それから50年以上の歳月が経っていることを考えると、短期大学の学生の場合、祖父母世代自体がこの生活文化革新の時代に団地の2DKで新婚生活をスタートさせ、新しいことを取り入れるのに積極的であった世代なのではないだろうか。したがって、家庭内における年中行事等の伝承は、その一世代前の曾祖父母世代抜きには語れないことなのかもしれないと痛感させられた。

#### 【注】

- 1) 庄田美保「短大生における館の嗜好について—製菓学科における実態調査より—」『目白大学短期大学部研究紀要』第51号、目白大学短期大学部、2015年、p.67
- 2) 先川直子「和装 衣更え・季節感と文明開化の影響」、日本生活学会編『生活学事典』、TBSブリタニカ、1999年、p.416
- 3) 庄田美保『前掲書』、pp.67-78
- 4) 庄田美保『前掲書』、pp.70-71

#### 【参考文献】

1. 須藤 功『昭和の暮らし8 年中行事』農山漁村文化協会、2006年
2. ミセス編集部編『日本の冠婚葬祭 総集編』、文化出版局、1978年
3. 青木正美・西坂和行『東京下町100年のアーカイブス』、生活情報センター、2006年
4. 伊藤正直・新田太郎監修『ビジュアルNIPPON 昭和の時代』、小学館、2005年
5. 須藤 功『大絵馬ものがたり4 祭日の情景』、農山漁村文化協会、2010年
6. 天野正子「おやつ」(天野正子・石谷二郎・木村良子『モノと子どもの戦後史』収録)、吉川弘文館、2007年
7. 青木俊也『団地2DKの暮らし』、河出書房新社、2001年
8. 清水慶一『あこがれの家電時代』、河出書房新社、2007年
9. 宮田 登『暮らしと年中行事』、吉川弘文館、2006年

[別紙]

和菓子・餡について アンケートにご協力ください

1. 和菓子について質問します。

- ① あなたは和菓子が好きですか？（○を付けてください）

好き 嫌い

- ② あなたの好きな和菓子は何ですか

( )

- ③ 餡、または餡を使ったお菓子は好きですか？（○を付けてください）

好き 嫌い 餡による

- ④ 好きと答えた人は何餡が好きですか？（餡によると答えた人も回答下さい）

その理由、好きになったきっかけがあればご記入ください。

好きな餡・・・例：小豆こし餡、小豆粒餡、白餡、うぐいす餡、黄味餡、柚子餡、梅餡など ( )

好きな理由、好きになったきっかけ

( )

- ⑤ 嫌いと答えた人は、何餡が嫌いですか？（餡によると答えた人も回答ください）

その理由、嫌いになったきっかけがあればご記入下さい。

嫌いな餡 ( )

嫌いな理由、嫌いになったきっかけ

( )

- ⑥ 和菓子はどこで購入しますか？（○を付けてください）

和菓子店 コンビニ スーパーマーケット 家族が購入

その他 ( )

2. 幼少時の環境について質問します。

- ⑦ 幼い頃のおやつは何でしたか？ 餡を使ったお菓子があればそのお菓子の名前もご記入下さい。

おやつ ( )

お菓子の名前 ( )

- ⑧ 幼い頃、好きなお菓子は何でしたか？

( )

- ⑨ あなたの母親は和菓子と洋菓子 どちらが好きですか？（○を付けてください）

和菓子 洋菓子

- ⑩ 幼い頃、母親または祖母がお饅頭等を手作りしてくれたことはありますか？

あれば、その時は何を作ってくれましたか？

ある ない

お菓子の名前

- ① あなたは祖父母と一緒に暮らした経験はありますか？（○を付けてください）  
現在も同居している 以前に同居していた 経験なし
- ② あなたの家庭では、日本特有の年中行事を取り入れていますか？（○を付けてください）  
また、その行事は何ですか？  
積極的に取り入れている 行事によって取り入れる 全くなし  
行事（ ）

その他、和菓子について何かご意見がありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。